

# クメール語の時を表す語句の位置

上田 広美

(東京外国語大学大学院総合国際学研究院)

## 要 旨

クメール語の基本語順は主語＋述語＋補語であり、場所や様態を表す語句は補語の後ろに置かれる。しかし、「今日」「来年」「その時」など時を表す語句は主題化されて文頭に置かれることが多い。本稿では、こういった時を表す語句が主題化される場合とされない場合のそれぞれの用法について、小説や体験記の現代文から収集した用例をもとに考察した。その結果、他の時間と対比してある時間にどのような出来事が起きるのかという文脈では文頭に置かれること、一方で、ある出来事が起きるのがほかならぬその時間であるという文脈では文末に置かれること、また、単文中では主題化されやすいことを述べた。

## 1. はじめに<sup>1</sup>

クメール語の基本語順は、主語＋述語＋補語であり、それ以外の要素は、補語の後に、量を表す語句、様子を表す語句、場所を表す語句の順で現れることが多い。補語、もしくは補語に後置される要素は、文頭に置かれて主題化されることがある。坂本 (1988a: 1489) では、「文は、主題をもつことができ、この主題は文頭におかれる」とし、「私はこの学校でクメール語を習う」という例(1a)から、それぞれ、この文の述語である動詞/bəŋriən/<教える>の補語である/phèəsa kmae/<クメール語>が主題化された例(1b)と、場所を表す前置詞句である/nəv saalaa riən nih/<この学校で>が主題化された例(1c)を、以下の通り、挙げている。

- (1a)    kɾom    bəŋriən    phèəsa kmae    nəv saalaa riən    nih.<sup>2</sup>  
私      教える      言語      クメールで      学校      これ  
「私はこの学校でクメール語を教えている」      (坂本 1988a: 1489)
- (1b)    phèəsa kmae    kɾom    bəŋriən    nəv saalaa riən    nih.  
言語      クメール      私      教える      で      学校      これ  
「クメール語は、私がこの学校で教えている」      (坂本 1988a: 1489)

<sup>1</sup> 本研究は科学研究費補助金(基盤研究A) 多言語話しことばコーパスと学習者言語コーパスに基づく言語運用の研究と教育への応用(課題番号 19202015)の補助を受けた。

<sup>2</sup> 本稿の表記は音韻表記で、坂本(1988)に従う。例文の出典については、本文末尾に示す。

- (1c) nàv saalaa riən nih (knom) bəŋriən phèəsaə kmae.  
 で 学校 これ 私 教える 言語 クメール  
 「この学校では、(私が) クメール語を教えている」 (坂本 1988a: 1489)

主題となるのは、例(1c)のような場所を表す前置詞句に限らず、それ以外の前置詞句も主題となることができる。例(2)では前置詞句/cəə muoj vèəcaa/<その言葉とともに>が文頭に置かれている。

- (2) cəə muoj vèəcaa kròm tət nèəŋ tooc pəv muoj cəəŋ tiət jaəŋ dəmnoəm.  
 一緒に 言葉 (人名) 蹴る(人名) 1 脚 更によろ強く  
 「そういうとクロムはパウをさらに強く蹴った」 (KTH)

主題が名詞句である場合、文脈によっては、/cəmnaek/<一方>や/rii ʔae/<一方>といった対比を明示する語句が前置されることもあるが、こういった標識は必須の要素ではない。例(3)は、自分と子どもたちの将来を案じている母親を安心させようとする発話の一部であり、直前の「君(母親)はどこにも行く必要はないよ」に続く文であるため、「母親自身」と対比され主題となっている名詞句/koon koon/<子どもたち>の前に/cəmnaek/<一方>が付加されている。

- (3) cəmnaek koonkoon mlih mun bac pruoj tèe.<sup>3</sup>  
 一方 子 子 (人名) (否定) すべき 心配するよ  
 「子どもたちのことも心配することはない」 (KPM)

本稿で扱う/cnam nih/<今年>、/tɲaj nuŋ/<その日>、/sʔaek/<明日>、/jòp/<夜>、/ʔəjləv/<今>、/maoŋ bəj/<3時>などの時を表す語句は、例(4)のように、主題化されて文頭に現れることが多い。

- (4) tɲaj nih koon srəj lòok baep sapbaaj cət nah.  
 日 これ 子 女 あなた よろ 楽しい 心 とても  
 「今日は、えらくご機嫌のようだな」 (RPH)<sup>4</sup>

しかし、時を表す語句であっても、例(5)に示すように、主題化されず、文末に置かれることもある。

- (5) paa riik rèəj nah tɲai nih.  
 父 楽しい とても 日 これ  
 「今日はとても嬉しいよ」 (RPH)

なお、時を表す語句の文中での位置について、ここまで文頭、文末と述べてきたが、複文の場合には、節の冒頭、節の末尾とすべきであろう。また、単文の場合にも、文頭に接続詞や疑問詞が現れる場合もあるし、主語の後に時を表す語句が位置する例(6)もある。一方で、話者の主張を表す文末詞がつく例(7)や、複数の前置詞句が付加される文、もしくは疑問詞が文末に位置する一般疑問文では、時を表す語句が文末に位置するとは言えない。従って、正確には、時を表す語句が主題化された場合は述語より前に位置し、そうでない

<sup>3</sup> この/koon koon/<子どもたち>のように、名詞句や動詞句が繰り返されて、意味を強めることがある。時を表す語句でも、例(16)の/ʔəjləv/<今>も同様である。

<sup>4</sup> 例文中の時を表す語句に下線を付す。

場合は述語より後に位置する、とすべきであろうが、本稿では、以下、便宜上、文頭、文末としておく。

- (6) knom kaal cool mòok dól pnòm pèn dómboon stàə ckuot.  
 私 時 入る来る 至る(地名) 最初 そう狂う  
 「最初、プノンペンに戻ってきたとき、気が狂いそうだった」 (PNP)
- (7) ʔəncəŋ cam ʔoon tən baok krəəmaa nuŋ ʔaav tòk ʔəoj bəəŋ  
 では 待つ私 行く 洗う 布 と 服 置く 与える あなた  
səmrap jòək tən nèə tŋaj sʔaek vuŋ.<sup>5</sup>  
 ために 取る 行く に 日 明日 戻る  
 「じゃあ、明日持っていけるようにクロマーと服を洗っておくわ」 (RPH)

本研究で収集した用例中では、時を表す語句が主題化された用例が大部分であった。クメール語の語彙の頻度に関する正確な統計はないが、参考として、本研究でデータ化した資料のうち5作品中<sup>6</sup>の用例を調べたところ、*ʔəjlv*/<今>を伴う文で、*ʔəjlv*/<今>が文頭に現れるものは33例あったのに対し、文末に現れるものは4例にすぎなかった。

本稿では、こういった時を表す語句が主題化されて文頭に置かれる場合と文末に位置する場合のそれぞれの用法について、以下、単文中の用例と複文中の用例に分けて考察する。

## 2. 先行研究

本章では、先行研究中の記述を紹介する。時を表す表現の文中での位置についての研究はなく、以下は文法概説や入門書であるため、いずれも簡略な既述にとどまっている。

### 2.1. 坂本 (1988a) (1988b)

クメール語を概説した坂本 (1988a: 1489) では、語順についての説明の中で、文の主題の例として、以下の例(8a-8b)を挙げている。時を表す語句が主題化される場合とされない場合の意味の差異については、各例の全文訳の説明があるのみである。主題化されたものは、明日の予定を述べる文であると考えられる。

- (8a) knom tən ʔoosaakaa sʔaek.  
 私 行く大阪 明日  
 「私は明日大阪へ行く (大阪へ行くのは明日だ)」 (坂本 1988a: 1489)
- (8b) sʔaek knom tən ʔoosaakaa.  
 明日 私 行く大阪  
 「明日は私は大阪へ行く (だから明日はあなたと会えない)」 (坂本 1988a: 1489)

また、クメール語の文法書<sup>7</sup>である坂本 (1988b: 62) では、語順についての説明の中で、時を表す語は「主題化するのを好む」とし、動詞と補語だけでほかにこの動詞句を修飾す

<sup>5</sup> 時を表す語句に前置詞/nèəを付けることもあるが、必須の要素ではない。

<sup>6</sup> RPH, CKK, KPM, PNP, KTH を使用した。

<sup>7</sup> 書名は『カンボジア語入門』であるが、カンボジア語とクメール語は同じ言語である。

る語句がない場合には動詞句の後でもいいが、量や場所を表す修飾語句がある時には文頭に置く、と述べている。

## 2.2. Khin (1999) (2007)

文法を概説した Khin (1999: 531-532) では、時間や場所を表す語句の文中での位置について、「時を表す語句+場所を表す語句+主語+述語+補語」という語順を挙げ、文頭に位置する時を表す語句は、その文全体の時間的な状況を表しているとし、以下の例 (9) を挙げている。

- (9) kaal pii tñaj tii mpèj pram bəj səjhaa muoj pəən pram buon ròj hoksəp pram muoj  
 時 から 日 第 28 8 月 1966<sup>8</sup>  
pèel maon prampii jòp nàv knoŋ prèəh vi?hèə vət svaaj ròpèè səjkat  
 時 時 7 夜 に 中 本堂 (寺名) 地区  
lèek pram muoj pnòm pèp mèən pi?thii prəkèen səjñaabat nuŋ traə taŋ  
 番号 6 (地名) ある 儀式 差し上げる 証書 と 印鑑  
cəmpòh prèəh daecèə?prèəhkòn ?eəj kheemii kòŋ nàv vət svaaj ròpèè.  
 に (人名) いる に (寺名)

「1966年8月28日午後7時、プノンペン市6区のスイ・ポペー寺にて、  
 同寺のエン・ケミー師の任命式典が行われた」 Khin (1999: 531)

一方、文末に位置する時を表す語句は、その文中の動作の行われる時を表すとして、以下の例 (10) を挙げている。また、「主語+述語+補語+時を表す語句」の語順の文は「いつ」という疑問文への返答であるとも述べている。

- (10) knom kəə prəəm cool riən cèə səh krav bəncii  
 私 も 同意する 入る 学ぶ として 学生 外 名簿  
knoŋ kəə səə muoj pəən pram buon ròj dəp pram muoj.  
 中 西暦 1916

「私は1916年に非正規生として入学することにした」 Khin (1999: 532)

同じく文法概説書である Khin (2007: 325) では、時間を表す語句の文中での位置について、文頭に置くとのみ述べている。

## 2.3. Gong (2008)

中学校、高等学校用の国語解説書である Gong (2008: 147-148) では、時間や場所を表す語句の文中での位置について、文頭か文末のいずれかに位置するが、文中の位置を移動できる場合とできない場合があるとし、以下の例 (11-12) を挙げている。しかし、文中の位置を移動できない例はすべて場所を表す語句の例であり、時を表す例は挙げられていない。また、文中の位置による意味の差異については、何も述べられていない。

<sup>8</sup> この/pii/<から>は、必須の要素ではないが過去の時を明示するために時を表す語句に前置されることが多い。

(11a) sʔaek nih kɔət tvəə dɔmnaə tən pnòm pɛ̃n.  
 明日 これ 彼 する旅 行く (地名)

(11b) kɔət tvəə dɔmnaə tən pnòm pɛ̃n sʔaek nih.  
 彼 する旅 行く (地名) 明日 これ  
 「明日、彼はプノンペンに行く」

Gong (2008: 147)

(12a) kaal pii mòn bɔəŋ kɲom tvəə jòothèə.  
 時 から先 兄 私 する兵

(12b) bɔəŋ kɲom tvəə jòothèə kaal pii mòn.  
 兄 私 する兵 時 から先  
 「以前、兄は兵役について」

Gong (2008: 147)

以上で概観したように、時を表す表現の文中の位置について、先行研究中では、文頭と文末の二つの位置があり得ることが簡単に述べられているのみである。坂本 (1988b: 62) では、時を表す語は「主題化するのを好む」とし、動詞と補語だけでほかにこの動詞句を修飾する語句がない場合には動詞句の後でもいいが、量や場所を表す修飾語句がある時には文頭に置く、と述べている。Khin (1999: 531-532) では、文頭に位置する場合は文全体の時間的状況を、文末に位置する場合にはその動作の行われた時を表しており、後者は、時を尋ねる質問への返答に用いられると述べている。

### 3. 単文

本章では、Khin (1999: 531-532) で挙げられている疑問文の場合を含め、単文中の用例について考察する。

#### 3.1. 主題化される場合

前章までに述べたように、時を表す語句は、主題化されて文頭に現れることが多く、「他の時間と対比してその時間には、どのような事態が起きるか／たか」を叙述すると考えられる。「他の時間」は表層には現れず文脈上から判断されることもある。

前述の例(4)は、娘の部屋の前を通りかかり、歌声を耳にした父親の発話である。普段は不機嫌なことの多い娘がその日は珍しく機嫌がいいことに驚いている場面であり、他の日と比べて「今日」起こった事態、即ち「娘の機嫌がいい」ことを述べている文である。

(4 再掲) tɲaj nih koon srəj lòok baep sapbaaj cət nah.  
 日 これ 子 女 あなた よう 楽しい 心 とても  
 「今日は、えらくご機嫌のようだな」

(RPH)

同様に、時を表す語句が主題化されて文頭に現れる例を以下に示す。例(13)は過去のこれまでの年と比べて「今年」起こった事態、即ち上司の昇進について、例(14)も過去と比べた「現在」の状態、即ち兄妹の年齢について、それぞれ述べている文である。

(13) cnam nih cavvaaj rə̀əbɔh nèəŋ baan laəŋ bon muoj krəət tiət.  
 年 これ 上司 の 彼女 得る 上がる 階級 1 段階 更に

「今年、サローン氏はまた階級がぐっと上がった」 (CKK)

- (14) ʔəjləv nih      nòt      ʔaajuʔ      dəp pram bəj      cnam  
 今      これ      (人名)      年齢      18      年  
 cəmnaek srəj laen ʔaajuʔ      dəp buon cnam.  
 一方      (人名)      年齢      14      年

「現在ヌットは18歳、ラエンは14歳」 (KPM)

本稿のために収集した用例中で頻度が高かったものは、例(15)のような文である。一定の時間ごとにどのような事態が起きているか／起きたかを順番に叙述する文で、時を表す語句は主題化されている。

- (15) cnam muoj pəən pram buon rəj cətsəp      nuŋ      cnam      bəntəj  
 年      1970      と      年      次  
 kɲom      nuŋ kruosaa kɲom      kəɔ dooc kruosaa kmae      dətəj  
 私      と      家族      私      も      同じ      家族      カンボジア      別の  
 trəv      rət luun pii phuum      muoj      təv phuum      muoj.  
 受ける      逃げる      から村      1      行く村      1  
cnam muoj pəən pram buon rəj cətsəp pram      səŋkrəəm      cəp.  
 年      1975      戦争      終わる

「1970年とその翌年、私と家族は他の家族と同様、村から村へと逃げ回った。

(中略) 1975年、戦争は終わった」 (RPH)

### 3.2. 文末に位置する場合

時を表す語句が文末に位置する場合は、「ある事態が起こるのは、ほかならぬその時間である」と述べている文であると考えられる。前述の例(5)は、喧嘩をしていた子どもたちを仲直りさせ食卓につかせた父親が子どもたちに言う発話である。楽しいのはまさに/tjai nih/<今日>であることが強調されている。

- (5 再掲) paa riik rəj      nah      tjai nih.  
 私      楽しい      とても      日      これ

「今日はとても嬉しいよ」 (RPH)

同様に、時を表す語句が、文末に位置する例を以下に示す。例(16)は重い病気で熱にうなされている娘の発話であり、生命の危機をずっと感じていたが、死に瀕しているのはまさに/ʔəjləv/<今>であるということが述べられている。この文から時を表す/ʔəjləv/<今>を主題化すると、「これからどのような事態が起こるか」を叙述する文となり、自らの死を宣言する文になってしまう。例(17)は、長年行方不明になっていた知人を探している場面であり、その一家が転居したことは知っていて、それが1977年であったことがわかったと述べている文である。

- (16) ʔap slap      ʔəjləv      ʔəjləv.  
 私      死ぬ      今      今

「もうすぐ死ぬんだ」 (RPH)

- (17) cəmpòh kruosaa cannaa trəv miij phəllii prap thaə kèe cònliah  
 ついて 家族 (人名) 受ける (人名) 告げる と 彼ら移動する  
 tàv bat dombəɔj kaal pii cnam muoj pəən pram buon rəɔj cətsəp pram pii.  
 行く (地名) 時 から年 1977

「チャンナーの家族は、1977年にバタンバンに移動したということだった」(RPH)

### 3.3. 疑問文と返答文

2章で述べた通り、Khin (1999: 531-532) は、文末に位置する時を表す語句、即ち「主語+述語+補語+時を表す語句」の語順の文は「いつ」という疑問文への返答であると述べている。前節で述べた通り、時を表す語句が文末に位置するのは、「ある事態が起こるのは、ほかならぬその時間である」と述べている文であるから、時間を尋ねる文やその返答文で、強調されるべき時を表す語句がこの語順をとるのは当然であろう。

時間を尋ねる疑問詞の/ʔəŋkal/<いつ>が文末に位置する例(18)を以下に挙げる。クメール語の疑問文は語順の変更を伴わないため、/ʔəj/<何(を)>、/naa/<どれ(を)>など、補語の部分を探ねる疑問詞は文末に位置する。文頭に位置するのは、理由を探ねる/haet ʔəvəj/<なぜ>、主語を探ねる/nèək naa/<誰(が)>などである。例(18)は、「本当は、カンボジアの女性よりも、ラオスの女性の方がきれいなのだ」と言われたことへの反論であり、時間を尋ねる疑問詞の/pii ʔəŋkal/<(過去の)いつ>は文末に位置する。

- (18) vii dael khəɔn nèərii laav pii ʔəŋkal.<sup>9</sup>  
 (人名) (経験) 見える 女性 ラオス からいつ

「いつラオス女性を見たことがあるの？」

(MBD)

以下の例(19)は、内戦中、長い移動を続けている人々が、次の出発の時間について尋ね、返答する発話である。どちらの話し手も、「出発する」という事態が起きることを知っている。疑問詞の/ʔəŋkal/<いつ>は例(18)と同じく文末に置かれ、返答文の第一文の/pruuk sʔaek/<明日の朝>も、Khin (1999: 531-532) の説明通り、文末に置かれる。しかし、返答文の第二文は、別の時間、即ち/ŋhəɔc nih/<今夜>に起きる事態について述べる文であるので、/ŋhəɔc nih/<今夜>が文頭に置かれている。

- (19) kèe tàv ʔəŋkal.

彼ら行くいつ

「いつ出発なんだ？」

baat ceŋ dɔmnaə pruuk sʔaek.

はい出る旅 朝 明日

tae ŋhəɔc nih kèe ʔəɔj jəɔŋ tàv sɔmraak nàv psaa kɔkii.

だが夕方 これ彼ら与える 我々 行く 休む で (地名)

「明日の朝。だけど、今日の夕方にはコキー市場で一泊するらしい」(NRK)

例(20)も、例(19)と同じく出発の時間を尋ねる発話である。疑問詞の/ʔəŋkal/<いつ>は例

<sup>9</sup> この疑問詞の/ʔəŋkal/<いつ>は、基本的には未来の「いつ」を表し、/pii/<から>が前置されると過去の「いつ」を探ねる文となる。

(18)(19)と同じく文末に置かれている。*/ʔəŋkal/*<いつ>に対する直接の答えは*/maoŋ bəj/*<3時>であろうが、返答文の第二文で引用の形で述べられているため、*/maoŋ bəj/*<3時>は引用節中で主題化されている。

(20) kèe ceŋ tət̚v ʔəŋkal.

彼ら出る 行くいつ

「いつ出発なんだ？」

baat cam còm knèə bəoŋ.

はい 待つ 集まる 互いに あなた

kèe prap thaa maŋ bəj ceŋ dɔmnaə.

彼ら言う と 時 3 出る旅

「みんなが集まったら。3時頃かな」

(NRK)

しかし、以下に示す通り、疑問詞の*/ʔəŋkal/*<いつ>も、返答文中の時を表す語句も、ともに文頭に位置する例(21)もある。2章で述べたように、坂本(1988b: 62)では、時を表す語句は量や場所を表す修飾語句がある時には文頭に置く、としているが、この例(21)には量や場所を表す修飾語句は存在しないにもかかわらず、文頭に置かれている。

(21) ʔəŋkal tət̚p phaaneet vèə mòk dɔl pɔ̀nm pèŋ vuŋ chaajaa.

いつ すると (人名) 彼 来る 至る(地名) 戻る (人名)

「パネートは今度はいつプノンペンに戻ってくるのかしら、チャヤー？」

sʔaek mòk dɔl haəj ʔom.

明日 来る 至る(完了) おばさん

「明日、帰ってきますよ、おばさん」

(RPH)

例(21)では、疑問詞の*/ʔəŋkal/*<いつ>が文頭に置かれており、後続する接続詞の*/tət̚p/*<そうすると>があるため、特定の一点の時間を尋ねているのではなく、「いつになったら」という時間の経過を尋ねる文である。その返答文でも、「明日になったら」という時間の経過を表すために、*/sʔaek/*<明日>が主題化されていると考えられる。

以上、本章では、単文中の用例について考察した。時を表す語句が主題化され文頭に位置する場合は、「他の時間と対比してその時間には、どのような事態が起きるか/たか」を、時を表す語句が文末に位置する場合は、「ある事態が起きる/起きたのは既にわかっており、それはほかならぬその時間である/であった」ことを述べていると考えられる。従って、なんらかの事態が起きる時間を尋ねる疑問文中の疑問詞もその返答文中の時を表す語句も文末に位置するが、時間の経過を表す場合には主題化されることもある。

#### 4. 複数の節または文

本章では、複文中の用例を中心に、節の中の時を表す語句の位置について考察する。

##### 4.1. 他の時との対比

前章で、時を表す語句が主題化され文頭に位置する場合は、「他の時間と対比してその時



間には、どのような事態が起きるか／たか」を述べる文であり、「他の時」は文脈から判断されることもあると述べた。従って、複数の節があり、それぞれの節中の時を表す語句が対比される文でも、時を表す語句は主題化される。以下に例(22)を示す。第一節の/tɲaj mòn/  
<先日>と第二節の/tɲaj nih/  
<今日>が対比されており、どちらの語句もそれぞれの節の冒頭に置かれている。

- (22) tɲaj mòn kèe praakət cèə mèən cət srɔːlən kɲom nah  
 日 先 彼 確かに ある 心 愛する 私 とても  
 haet ʔəvəj tɲaj nih doo cət pseeŋ tɔ̀v kaət.  
 理由何 日 これ変える 心 他に 行く生じる  
 「この前までは、あたしのこと絶対好きだったのに、今日はもう心変わりする  
 なんて」 (CKK)

一方で、複数の節があり、それぞれの節の中に時を表す語句が含まれる文であっても、第一節の時を表す語句は主題化されないこともある。しかしこのような用例でも、第二節では時を表す語句が主題化される。以下に例(23-24)を示す。

例(23)は、家出しようとする少女をひきとめようとする家族に向かっての発話である。第一節の/tɲaj nih/  
<今日>は文末に置かれているが、第二節の/tɲaj sʔæck/  
<明日>は主題化されている。この例(23)では、第一節の/tɲaj nih/  
<今日>が強調されるべき時であり、それと対比される別の時を示す第二節の/tɲaj sʔæck/  
<明日>は主題化されている。

- (23) bɔːŋ nòt khɔət kɲom baan tɲai nih  
 (人名) とめる 私 得る 日 これ  
 tae tɲai sʔæck khɔət mun baan laəj.  
 が 日 明日 とめる (否定) 得るよ  
 「今日は止められても、明日は止められない」 (KPM)

例(24)でも同じく、第一節の/pèel mèən baan/  
<いい時>は文末に置かれているが、第二節の/pèel kròː/  
<貧しい時>は主題化されている。第一節の/pèel mèən baan/  
<いい時>が強調されるべき時であり、それと対比される第二節の/pèel kròː/  
<貧しい時>は主題化されている。

- (24) bɔːŋ pʔoon kèe skɔəl jəːŋ tae pèel mèən baan ponnɔh  
 親戚 彼ら知る 我々だけ時 ある 得る それだけ  
pèel kròː nèək naa kɔː mun rɔːp ròːk dae.  
 時 貧しい 人 どれも (否定) 近づく よ  
 「親戚なんていい時にだけ近づいて来て、貧しい時は誰も近寄らないよ」 (KPM)

## 4.2. 理由を表す節

理由を表す節でも、時を表す語句が節中で主題化される場合がある。以下に例を示す。例(25)は、体調が悪そうだからと勧められた民間療法をことわる場面である。理由を表す第二節では、文頭に接続詞の/pròh/  
<なぜなら>があるが、その直後に、時を表す語句/ʔəjləv nih/  
<今>が後続している。

- (25) mun bac kaoh kjol tèe mèəlèə pròh ʔəjləv nih  
 (否定) べき 擦る 風 よ (人名) から 今 これ  
 kɲom baan srəələh mòk srəələh məət sruol kluon vuɲ haəj.  
 私 得る 明るい 顔 明るい 口 容易な 自分 戻る (完了)  
 「もう意識がはっきりして気分がよくなったから、治療をする必要はないよ、  
 ミアリア」 (MBD)

しかし、理由を表す節が単独で現れる場合には、時を表す語句が文末に位置する例もある。以下に例(26-27)を示す。例(26)は、病人を見舞ってから医者に自分が去った後を託す発話である。文全体が、理由を表す節であるが、時を表す語句の一部とも考えられる/mòn kmuoj boʔrəj/<ボライより先に>をのぞけば、その文末に/sʔaek/<明日>が位置している。

- (26) tət knèə cəŋ vuol trəələp tən pɲòm pèp sʔaek mòn kmuoj boʔrəj.  
 から私 たい 戻る帰る 行く(地名) 明日 先 (人名)  
 「ボライより先に、明日にはプノンペンに帰りたいんでね」 (RPH)

例(27)も同様の例である。勤勉な養子が帰京して早々勉強に励んでいるのを知った養父の発話である。文全体が、理由を表す節であるが、文末詞の/naa/<ね>をのぞけばその文末に、時を表す語句/pii msəl məŋ/<昨日>が位置している。

- (27) tət kèe təəp nuɲ mòk pii kəmpòŋ caam pii msəl məŋ naa.  
 から彼 ばかり 来る から(地名) から昨日 ね  
 「昨日コンボン・チャムから帰ってきたばかりなのにな」 (RPH)

### 4.3. 仮定を表す節

仮定節でも、時を表す語句が節の冒頭に位置する例がある。以下に例(28-29)を示す。例(28)は、翌日前線に出る兵士が、知人に別れを言いに来る場面である。第一節では、仮定を表す接続詞の/baə/<もし>の直後に、時を表す語句/sʔaek/<明日>が後続している。

- (28) baə sʔaek puok jəəŋ cəŋ tən saamaaraʔphuum kmèən pèel kəmnət.  
 もし明日 我々 出る行く 戦場 ない 時 定まった  
 「明日は何時に出発かわからないし」 (RPH)

(29)は、第一節では、仮定を表す接続詞の/baə/<もし>の直後に、時を表す語句/pii tɲaj mòn mòn/<先日>が後続している。

- (29) baə pii tɲaj mòn mòn khəəŋ mèəlèə dot thuup bən srən prèəh  
 もしから日 先 先 見える (人名) 燃やす 線香 祈る 神  
 ʔəj cəŋ kɲom cbah cèə niʔjèəj bəŋʔap cəmʔən cəmpòh còmnuə  
 そのように 私 明らかに話す からかう に 信仰  
 ʔaʔruupəj rəbəbəh nèəŋ cèə mun khaan.  
 不確かなの 彼女 絶対に

「先日、ミアリアが線香に火をつけて祈るのを見たからには、彼女の信心をからかわずにはいられない」 (MBD)

しかし仮定節でも、時を表す語句が節の末尾に位置する例もある。以下の例(30)(31)では、

仮定を表す第一節で、時を表す語句/ʔəjləv nih/<これから>と/nəv peel nih/<今>が節の末尾に置かれている。

- (30) prəʊsən baə jəəŋ mun kut səmraŋ pii ʔəjləv nih təv  
 もし 我々(否定) 考える 精製する から今 これ行く  
dəp cnam ruu mphèj cnam tiət.  
 10 年 か 20 年 更に  
 「今からこのことを考えておかないと、10年、20年後には(上手な漕ぎ手が  
 いなくなった舟みたいになってしまう)」 (PNP)<sup>10</sup>

- (31) baə sən cəə jəəŋ prəʊcaŋ nuŋ vəə nəv peel nih kuu cəmneŋ tae  
 もし 我々反対するに 彼らに 時 これ即ち 利益 だけ  
slap kluon ʔət ʔəmpəə tèe.  
 死ぬ自分 ない有用 よ  
 「もし今やつらに反対しても、犬死にするだけだよ」 (MBD)

また、仮定節であって、複数の時間が対比されている場合でも、以下の例(32)のように、時を表す語句が節の末尾に置かれることもある。例(32)では、仮定を表す文が2文続いている。どちらの文でも、仮定を表す第一節で、時を表す語句/jəp/<夜>と/pèel tŋaj/<日中>が節の末尾に置かれている。

- (32) baə nèək cəmŋuu slap jəp kmaoc nih nəv deek cəə muoj jəəŋ təəl pluu.  
 もし人 病気 死ぬ夜 死体 これいる寝る一緒に 我々まで夜明け  
baə nèək cəmŋuu slap pèel tŋaj luh traa tae nèək cəmŋuu knəə ʔaəŋ  
 もし人 病気 死ぬ時 日 すると 人 病気 一緒に  
təv prap pèet təəp kèe məək rəəhah jəək təv kəp  
 行く告げる 医者すると 彼ら来る 速い 取る行く埋める  
 「病人が夜中に亡くなくても、私たちは明け方までその死体と一緒に寝ていた。  
 昼間であっても、誰かが医者に行きに行ってやっと死体を埋めるといった具合  
 だ」 (NRK)

#### 4.4. 名詞修飾節

名詞修飾節では、時を表す語句が節の冒頭に位置する例はほとんどない。以下に例(33-34)を示す。例(33)は少年が強盗をしている理由を語る場面である。この文全体の主語である「今ヌットがやっていること」という名詞句の中で、時を表す/pèel nuh/<その時>は、節の末尾に位置している。例(34)は、動詞/khəəŋ/<見える>の補語である「朝洗濯をしていた女性」という名詞句の中で、時を表す/pii pruk/<朝>は、節の末尾に位置している。

- (33) ʔəvəj dael nət tvəə pèel nuh prəh tae nèək təəl crəək pèek.  
 何 (関係) (人名) する時 それからだけ人 つまる すぎる  
 「今ヌットがやっているのは、金に困ってのことなのだった」 (KPM)

<sup>10</sup> 全文訳中に必要に応じて( )内に前後の文脈を補う。

- (34) srəp tae khəəŋ nəərii dael baok khao ʔaav pii pruk daə ceŋ  
 突然 見える 女 (関係) 洗う 服 から 朝 歩く 出る  
 mək kbaal tuuk sraek hav kɲom təəŋ ɲəŋɲum pəpɲəəj.  
 来る 頭 舟 叫ぶ 呼ぶ 私 全て 微笑む  
 「その時突然、朝洗濯をしていた女性が舐先に近づいて来て、微笑んで私に  
 呼び掛けてきた」 (MBD)

例(35)では、この文の主語である「毎晩灯をともしている川辺の菓子売りたち」という名詞句の中で、時を表す/rəəl jəp/<毎晩>は、節の末尾に位置している。しかし、その後にくる時を表す/pəel nih/<その時>は、この文の述語/rəə/<移す>より前に置かれている。

- (35) nəək lək nòm cəmnəj nəv məət tɔnlèe dael tɔəp tae ʔoc cəŋkiəŋ pluuu  
 人 売る 菓子 に 口 川 (関係) (経験) 灯す 灯り 明るい  
 prəəŋ prəət rəəl jəp nuh pəel nih rəə ʔəjvan chəp lək kməən səl  
 輝く 毎 夜 それ 時 これ 移す 荷物 やめる 売る ない 残る  
 mnək səh tvəə ʔəoj tii nuh ɲəŋɲut khoh pii thəəmmeəʔdaa.  
 一人 全く させる 所 それ 暗い 違う から 普通  
 「(雨が降りそうだったので) 毎晩灯をともしている川辺の菓子売りたちは、  
 その時は荷物をたたんで誰一人残っておらずその場所はいつもと違って  
 真っ暗だった」 (MBD)

一方、名詞修飾節でも、時を表す語句が節の冒頭に位置する例もある。

- (36) tuək tɔnlèe dael kaal pii tɲaj mēən pəə bajtəəŋ ʔəiləv nih  
 水 川 (関係) 時 から 日 ある 色 青 今 これ  
 bæ klaaj tən cəə kmav muoj rəmpəc.  
 変わる に 黒い 1 瞬間  
 「日中は青かった川の水は、今は一瞬にして黒くなっていた」 (MBD)

例(36)は、「日中は青かった川の水」という名詞句の中で、時を表す/kaal pii tɲaj/<日中>は、節の冒頭に位置している。また、それに続く/ʔəiləv nih/<今>も対比されている時間であるため、この文の述語/bæ klaaj/<変わる>の前に位置している。このような位置になるのは、「日中」と「今」という2つの時が対比されていることから、また、文末に/muoj rəmpəc/<一瞬にして>があるために、/ʔəiləv nih/<今>を文末に置くことができないからだと考えられる。

以上、本章では、複数の節または文の用例について考察した。複数の文が続きその文脈中で時間が対比される場合、時を表す表現は、第一文では、どちらの位置もあり得るが、第二文では対比されることになるため主題化されやすい。理由を表す節、仮定を表す節、名詞修飾節ではいずれも、時を表す語句が文頭に現れる例も文末に現れる例もあったが、多くは文末に位置する例であり、とくに名詞修飾節中で主題化される例は本研究の用例中では1例しかなかった。

## 5. おわりに

本稿では、時を表す語句が主題化される場合と文末に残る場合のそれぞれの用法について考察した。単文中では、時を表す語句が主題化され文頭に位置することが多く、「他の時間と対比してその時間に、どのような事態が起きるか／たか」を述べている。一方、時を表す語句が文末に位置する場合は、「ある事態が起きる／起きたのはわかっているが、それは、ほかならぬその時間である／であった」ことを述べていると考えられる。従って、時間を尋ねる疑問文中の疑問詞も返答文中の時を表す語句も文末に位置するが、時間の経過を表す場合には主題化されることもある。

複文中では、理由を表す節、仮定を表す節、名詞修飾節について調べたが、いずれの場合にも、時を表す語句が節の冒頭に位置する例も、節の末尾に位置する例もあった。単文の場合とは逆に、節の末尾に位置する例が大部分であり、とくに名詞修飾節では、節の冒頭に位置する例は少ない。しかし、複数の時が対比される文では、第二節の時を表す語句は主題化されやすい。

孤立語であるクメール語では、ある文の発話時点と、その文が表す事態が起きた時点との時間的關係は、本稿で扱った時を明示する語句の他に、動詞句の前もしくは後におかれる助動詞的要素、文脈や場面によって判断される。時を明示する語句も助動詞的要素もいずれも必須の要素ではなく、文脈や場面によってしかある文の時間的關係が判断できないこともある。本稿では限定された資料からの用例をもとに時を表す語句の文中での位置について考察したが、今後の課題としては、小説と体験記以外のテキストも含め、より多くの用例から本稿の結論を再考するとともに、完了、将来、未然、進行を表す助動詞的要素の用法の考察を進め、ある文の時間的關係が、表層に現れた要素からどこまで理解できるのか、どこから文脈や言語外の知識に頼らざるを得ないのかを明らかにし、クメール語の時を表す表現の全体像について明らかにしたい。

## 参考文献

- 岡田知子・上田広美(2010) 『現代カンボジア作家選』, 科学研究費補助金報告書, 東京外国語大学.
- オム・ソンバット, 岡田知子訳(2007) 『地獄の一三六六日 ポル・ポト政権下での真実』, 大同生命国際文化基金.
- 坂本恭章(1988a) 「クメール語」, 『言語学大辞典第1巻世界言語編(上)』 1479-1505, 三省堂.
- 坂本恭章(1988b) 『カンボジア語入門』, 大学書林.
- パル・ヴァンナリーレアク, 岡田知子訳(2003) 『カンボジア花のゆくえ』, 段々社.
- Gong, Sukheng (2008) *Veyyakarn khmaer ning pammnin phseng phseng*, Becr Naet.
- Khin, Sok (2007) *Veyyakarn bhasa khmaer*, Rajapanditasabha Kambuja.
- Khin, Sok (1999) *La grammaire du khmer moderne*, You-Feng.

## 資料

先行研究から引用した例文を除き、出典となった現代小説は、以下の略号で各例文末尾に記した。

CKK : Sym, Chanya (200? 出版年記載なし) *Chak kamplaeng kannha sobha*, Sym, Chanya.

KPM : Mav, Samnang (2000) *Kamrang pka mlih*, Qangar Navess Sangroh Kumar Kambuja.

KTH : Pal, Vannarirak (2007) *Ksae tuk ho*, Pal, Vannarirak.

MBD : Ti, Chi Huot (1988) *Megh Pat Tuon Cand*, Vappadharm.

NRK : Om, Sambatti (1999) *Muoj ban huksip pram thnai knun narok*, Om, Sambatti.

PNP : Sym, Chanya (2003) *Pkay nav tae ploe*, Sym, Chanya.

RPH : Pal, Vannarirak (1988) *Ronoc phot haei*, Kasaet Bnam Ben.

本稿で使用した資料は、科学研究費補助金（基盤C）「現代カンボジア文学の翻訳と研究」（代表：岡田知子）により入手したものである。全文訳にあたっては、基本的に岡田・上田(2010), オム(2007), パル(2003)を引用し、必要に応じて文脈を補った。先行研究中の例文も、本稿に掲載するにあたり表記と番号を統一した。また邦文でないものは逐語訳と全文訳の和文を付加した。

なお、本稿の用例収集にあたっては、科学研究費補助金（基盤研究A）「多言語話しことばコーパスと学習者言語コーパスに基づく言語運用の研究と教育への応用（課題番号19202015）」の補助でデータ化した小説テキストを用いて、簡易検索による用例収集がどの程度実用的かどうかを試みた。クメール文字は南インド系の固有の文字であり、分かち書きをしないため、特別な標識をつけずに入力したテキストから簡易検索によって適切な用例を探すことは容易ではない。また、資料の数と種類が限られるため、適切な頻度の助動詞の用例は収集可能であるが、検索対象の語によっては用例数が多すぎたり少なすぎたりする。今回の研究テーマについても、短編小説などでは、「明日」「昨年」のような語句の用例が全く現れないテキストもあった。しかし、以上のことを考慮しても、過去には文字コードの問題から検索がほとんど行えなかった状況と比べると、今後のクメール語研究において、用例収集の一つの手段として有用であると言えよう。